

世界水準の観光地の形成に向けたセミナー in 西胆振
～地域資源を活用した新たな日常における観光振興～ 議事概要

1. 日 時 令和2年12月18日(金) 14:00～16:00
2. 開催形式 WEB方式(本セミナーでは初)
3. 出席者 [基調講演]
国土交通省国土審議会北海道開発分科会特別委員
(東京女子大学 現代教養学部 国際社会学科 教授) 矢ヶ崎 紀子 氏
- [事例発表・意見交換]
一般社団法人 噴火湾とようら観光協会 理事 片桐 崇意 氏
洞爺湖有珠火山マイスター(元 壮瞥町地域おこし協力隊)
TOYACAFEオーナー 長友 加也 氏
スターマリン株式会社 代表取締役兼船長 伊藤 京香 氏
- [視聴登録]
自治体、観光協会、民間企業等 計 約150名

4. 次 第

- (1) 開会
- (2) 新たな日常における北海道の観光
- (3) 基調講演
- (4) 事例発表・意見交換
- (5) 閉会

5. 議事概要

- (1) 開会挨拶 北海道開発局 林開発連携推進課長
- ・国土交通省北海道局及び北海道開発局では、北海道の強みである「観光」をグローバルに飛躍する産業として育成するため、第8期北海道総合開発計画(以下、「8期計画」という。)の柱として「世界水準の観光地の形成」を掲げ、様々な取組を行っています。
 - ・西胆振地域は、北海道を代表する有数の観光資源が多数存在する地域。現在はコロナ禍により、全国的にも観光業界は極めて厳しい状況になっていますが、北海道の魅力、西胆振地域の魅力は何一つ変わっていないと考えています。
 - ・ウィズコロナ・アフターコロナ時代の観光においては、道内、国内、そしてこれに続くインバウンドの需要の早期回復が重要になると考えられます。本日は、西胆振の持つ強みを活かし、これからの観光地域づくりを進めていくための取組などについて、皆様と一緒に考えたいと思います。
- (2) 新たな日常における北海道の観光(資料1) 北海道局 小林企画調整官
- ・現在、北海道局では、8期計画の中間点検を行っており、これからの北海道をどうしていくべきか、どうあるべきか議論しています。その中で、今後の北海道観光については、国内外の新たな観光需要を取り込んだ観光の活性化を図ることとしています。
 - ・ポストコロナ、アフターコロナの時代においては、インバウンドが戻ってくるには最低でも4年程かかると言われており、それまでの間は、改めて国内旅行に着目して戦略的に北海道全体で進めていきます。
 - ・7空港一括運営により、道内の地方空港から地方空港へという観光形態も可能になります。空港から空港、空港から観光地といった2次交通、3次交通の強化という取組を進める必

要があります。

- ・来年9月にアドベンチャートラベルワールドサミットが北海道で開催される予定であり、事業者が主体となって、アドベンチャーを始めとした観光メニューの開発が行われています。北海道局では、社会資本の整備という観点から、空港の機能強化、クルーズ船の受入環境の整備、観光地や空港・港湾へのアクセス強化などを進めており、また、利用という観点からMaaSの取組を進めています。
- ・観光メニューの造成に関しては、サイクルツーリズム、インフラツーリズム、シーニックバイウェイ、農泊などを進めるとともに、北海道はドライブでの観光客が多いことから、観光協会等との広域連携によって道の駅にて地域情報の一元的な発信を行っています。
- ・現在、8期計画の中間点検報告書のパブリックコメントを実施しています。12月24日(木)までなので、是非ご意見をお寄せください。

(3) 基調講演

観光地域づくりにおける連携の重要性(資料2)

東京女子大学現代教養学部国際社会学科教授 矢ヶ崎 紀子 氏

- ・わが国の観光市場は、安定・成熟した規模の大きい国内市場と、成長するが外部要因の影響を受けやすいインバウンド市場とで構成されています。これら二つの異なった市場を、地域として上手に活用することが重要です。
- ・国際航空運送協会(IATA)は、世界の旅行需要が2019年水準に回復するのは2024年と予測しています。2024年に一気に全ての需要が回復するのではなく、需要は少しずつ段階的に回復していくと考えられるので、回復期に向けての準備期間は長くありません。
- ・仮に2024年に外国人が北海道に旅行する場合、半年~1年前に予約を含めた準備を終えていることが多いです。よって、2023年には「日本の北海道に行く」と決めていることとなります。決めるにはいくつかの選択肢があり、その中で北海道が選ばれなければなりません。逆算すると、2022年には日本の北海道に来たいとする外国人を増やしておく必要があります。そのため、2020~2021年に、しっかり準備を進め、情報発信などを行いながら本格回復に備えることが大切です。
- ・各種調査によると、インバウンド市場において訪日旅行のニーズは強く、旅行が解禁になって最初に行きたい国は日本と答える方が多いです。また、日本の中で行きたい場所として北海道は上位にあり、北海道旅行へは、自然体験・文化体験のアクティビティや食等の期待が高いです。
- ・Afterコロナにおいても、「分散、戸外、少人数」の旅が定着し、好まれていくと考えられています。このような状況の中で本当に外国人旅行者を受け入れてよいのかと考える地域の方も多いと思われるため、観光はこれまで以上に地域住民の理解を得ることが必要となります。
- ・回復期に向けて今準備すべきことは、①「分散、戸外、少人数」への強みを明確に(適切な人数で収益があがるように)、②お客さんのことを話そう(受け入れたいお客さんの具体的な共通のイメージを持つ)、③チームづくり(一緒に取り組んでいける仲間とチームをつくる。広域連携も視野に)、④お客さんとの関係づくり(一方的な情報発信ではなく信頼関係づくりを)、⑤リピーターづくり(リピーターこそ最初に戻ってきてくれる)です。

(4) 事例発表・意見交換

コーディネーター 東京女子大学現代教養学部国際社会学科教授 矢ヶ崎 紀子 氏

①噴火湾の恵みを活かした体験プログラムによる地域おこし(資料3)

一般社団法人噴火湾とようら観光協会理事 片桐 崇意 氏

- ・一般社団法人噴火湾とようら観光協会は、2018年に設立され、伊達信用金庫を含む10団体で構成されており、お金を払ってでも参加したいと思える体験プログラム（ホタテ釣り選手権体験、セリ見学ツアー等）に取り組んでいます。
- ・プログラムのガイドは観光協会職員が一手に担っていましたが、本年、管内の観光協会では初めて旅行サービス手配業に登録され、地域のガイドを育てる契機となっています。
- ・私は、地域住民こそガイドに適していると考えています。町のことをよく知る町民だからこそ町の魅力を話すことができ、あらためて地域に誇りを持つことにつながると思います。
- ・インバウンドの方にガイドをする中で、生きているサケをさばくことへの拒否反応や宗教上食べられないものがあるという知識が蓄積され、その知識をガイド人材育成や観光ガイドサポーターの場で伝え、地域に還元しています。
- ・豊浦中学校のふるさと学習の中で、生徒が自分たちで豊浦町の観光スポットを撮影しナレーションを入れ、それを観光協会HPで発信するという授業を行っています。中学生の頃から町の魅力を知り発信することが、未来のガイドにつながってくればよいと思います。

[コメント・質疑応答]

(矢ヶ崎氏) 様々な体験プログラムを通して、リピーターを作ろうということでしょうか。

(片桐氏) 豊浦には隠れた観光スポットはありますが、宿泊施設が少ないです。そのため、洞爺や壮瞥に宿泊する方に、ついでで良いので豊浦に寄っていただいてプログラムを体験してもらい、「次は豊浦の体験プログラムを目当てに来よう」と思っていただけのような仕掛けをしています。

(矢ヶ崎氏) 町民の中で、ガイドをやりたいと言っている方はいますか。

(片桐氏) 実数としては多くありませんが、ワークショップに参加された方の中に、英語ができる方や手話ができる方がいました。そのような方がいることで対応できる幅が広がり、それが将来に向けての明るい兆しだと思います。私個人の見解ですが、伊達信用金庫にもガイドをやってみたいという職員がいると思いますし、経験させたいです。

②火山との共生や自然・減災教育による地域おこし（資料4）

洞爺湖有珠火山マイスター（元 壮瞥町地域おこし協力隊）

TOYACAFEオーナー 長友 加也 氏

- ・洞爺湖に一目惚れし、2017年に横浜から移住しました。壮瞥町地域おこし協力隊として3年間従事し、現在は個人事業主としてTOYACAFEにて活動しています。
- ・SNSで情報発信していた私の移住生活を見た本州の方から、北海道や洞爺湖、壮瞥町に行ってみたくてという声が多く寄せられたことに加え、実は北海道は近い、安い、子供連れでもハードルは高くないということを知ってもらいたく、2018年夏に「親子キャンプ in 壮瞥」を開催しました。
- ・体験プログラムの一例として、地元で環境教育を行っているNPO法人「いきものいんく」の方に講師になっていただき、火山の成り立ちや洞爺湖の生き物について学びました。
- ・壮瞥町は星が綺麗で星の観測所もあるため、地域の方が講師となって星の観測の仕方や星の説明をしていただきました。
- ・地域の人を巻き込むことで、この地域を第二の故郷のように思える心が芽生えて親近感が湧き、また行きたいと思ってもらえるのではないのでしょうか。キャンプに参加された方のうち、自分の母と姉を連れてリピーターとして再訪された方もいます。
- ・今回は壮瞥町をPRする目的であったため、壮瞥町の体験プログラムが主でしたが、次に行く場合は、近隣市町村での体験プログラム（伊達の藍染めやウポポイ等）も取り入れたいです。
- ・洞爺湖温泉には新千歳空港からの直通バスが無く困っています。

- ・TOYACAFE内の珈琲焙煎所では、地元の農業高校と連携し、リンゴ木炭を使用した炭焼珈琲を開発。地域資源を活用した商品を使って地域をPRしています。

[コメント・質疑応答]

(矢ヶ崎氏) 地域の方と一緒に何かを行う際に心掛けていることはありますか。地域の方と仲良くなるコツも含めて、アドバイスをお願いします。

(長友氏) コツはこの地域をどれだけ愛しているかを伝えることだと思います。ここで生まれ育っている方にとって、この景色は普通ですが、外から来る者には宝物がいっぱい落ちているように見えます。そういうことを愛情を持って伝えると良いと思います。

(矢ヶ崎氏) 家族で北海道に来たいという方に訴求する手段として、子供の写真は非常に有効と考えますが、如何でしょうか。

(長友氏) 私が関東にいた時のことを振り返ると、子供には是非とも北海道での体験をさせてあげたいという欲求が高まっていました。そのような欲求をくすぐるようなイメージで写真を撮って投稿しています。

(矢ヶ崎氏) 長友さんが話していた「北海道は遠くて高い」という間違ったイメージは、未だに本州で跋扈しています。かつて、日本も外国から「遠くて高い」というイメージを持たれていた頃がありましたが、たくさんの方が来てくれたことでイメージが変わりました。「北海道は遠くない、高くない」ということを行政やDMOにPRしていただきたいです。

③日本十二大工場夜景を地域資源としたクルーズによる地域おこし(資料5)

スターマリン株式会社 代表取締役兼船長 伊藤 京香 氏

～冒頭、動画にてスターマリン株式会社が実施するクルージングなどを紹介～

- ・クルーズ以外で取り組んでいる活動の一つに「みなとまちづくり女性ネットワーク室蘭」があり、事務局長を務めています。当ネットワークのメンバーは、女性のみで構成され、女性ならではの観点で、港町室蘭を盛り上げていこうというものです。
- ・女性船員を増やすため、2019年に「輝け！フネジョ☆inむろらん」を開催。船員のみではなく港湾に関わる女性にも枠を拡大して実施しました。
- ・新型コロナウイルス対策として、使用の都度の消毒や定員制限などを行ってきましたが、今年度の観光売上は夏場の1ヶ月の売上にも満たない状況でした。「クリスマス特別ナイトクルーズ☆」をクリスマスの1週間前から特別に運航する予定でしたが、胆振でもコロナ感染が広がってきたため中止せざるを得なくなりました。
- ・インフラツーリズムである白鳥大橋主塔見学ツアーは評判がよく、リピーターが増えると思います。本格的な観光事業としての実施をWGで検討中です。
- ・将来は、様々な企業と連携して満足度が高くリピーターが増えるようなツアー（船上コンサートやダイビング体験等）を造成し、観光で地域を元気にしたいです。

[コメント・質疑応答]

(矢ヶ崎氏) インフラツーリズムと組み合わせるところが室蘭らしくてよいと思います。

(伊藤氏) 普段行けない白鳥大橋の主塔にも行くことができるので、有効活用できればリピーターが増えると思います。

(矢ヶ崎氏) 東京周辺でインフラツーリズムといえば、横須賀の軍港や太平洋ベルト地帯での工場の夜景群が有名であり、固定客も増えています。そのような地域と連携することで、お客様のやりとり等ができるかもしれません。

(伊藤氏) 色々活用方法はあると思います。

(矢ヶ崎氏) 海という資源の活用は可能性があり、北海道らしいです。大型の船でクルーズできたら気持ちいいと思います。

(伊藤氏) 中止になるとお客様が残念がるので、極力運航したいです。波にも強い大型船だと欠航率が下がると思うので、船の大型化を実現させたいです。

[事例発表者同士の感想・質問]

(片桐氏)

- ・長友さんのいる壮瞥町とは近接しており、洞爺湖温泉をひとつのハブにすると人を流すことができるのではないのでしょうか。
- ・伊藤さんが取り組んでいるインフラツーリズムについて、来年の本格実施が楽しみであり、夫婦揃って参加したいです。
- ・お二人の取組は非常に魅力的なので、私は Facebook で情報発信に取り組みたいです。

(長友氏)

- ・豊浦町の体験プログラムを聞き、今度親子キャンプで連携できないか考えていました。
- ・今年に入って初めて室蘭水族館に行きましたが、キャパシティやローカル感など、室蘭の隠れた宝だと思いました。

(伊藤氏)

- ・船のツアーにホタテ釣りを組み込むことができればよいと思います。
- ・仕事の関係で洞爺湖に頻繁に訪れており、その透明度や美しさを身近に感じています。私も3人の子供がおり、子供たちと一緒にプログラムを体験したいです。

[まとめ]

(矢ヶ崎氏)

- ・世界的にも旅行のトレンドは「観る」から「体験」にシフトしています。発表された皆様はトレンドに合う資源を活用していることが分かりました。
- ・「体験」を考えていくと「教育」につながります。観光を切り口に「体験」を突き詰めると、人間力や生きる力を高める、本質的なものになっていきます。色々な地域、サービス、事業者の方が連携して、多様なプログラムを造成し、「人育て、自分磨きなら北海道」と言われるようになればよいと思います。
- ・本日のキーワードである「連携」については、実体を持たないと意味はありませんが、前向きな気持ちで面白がってやっていただきたいです。行政やDMOは、連携を進める方をしっかりサポートしてください。

[質疑応答]

※チャットにて受け付けた質問を司会者より紹介

(質問 ①) 壮瞥町商工観光課長三松様から矢ヶ崎様への質問

- ・コロナ禍により地域間交流や地元の需要拡大には限界があります。ポストコロナを見据えて地域資源を活用する担い手が出てきてほしいですが、辛抱を強いられている事業者にどのように夢を語ればよいのでしょうか。
- ・また、団体旅行に依存した地域観光から脱却するために、ユネスコ世界ジオパークを活かした観光地づくりに取り組んでいます。地域内で温度差を感じます。コロナ禍にあつて、アウトドアを中心としたジオツアーを浸透させることはチャンスと捉えています。どのように地域経済に繋げて定着させればよいのでしょうか。

(矢ヶ崎氏)

- ・本日発表いただいた方を見ても分かるとおおり、夢は押しつけられるものではなく、自ら語るものだと思います。よって、夢を語るができる舞台を作っていただきたいです。その舞台で、地域の皆で来てほしいお客さんのイメージを話し合い、行政も「地

域をこのようにしたい」という夢を語り投げかけることで、地域の方が自ら小さな夢を語り出すのではないのでしょうか。

- ・日本において、ジオツアーは、その資源の魅力の割に成功例と言えるものが多くありません。問題解決のためには、ツアー自体に改善点があるのか、ツアーがターゲットと合っているのか、流通の問題なのか等、その理由を考える必要があります。最終的には、地域にお金が落ちないといけないので、客観的でドライなチェックしていくことが大事だと思います。

(質問 ②) 片桐様への質問

- ・地方へ観光客を呼び込む上でのポイントについて、国内と外国人との違いも含めて、思うところがあれば教えてください。

(片桐氏)

- ・興味について国籍は関係ないので、国内・海外というよりも最終的には個人に帰着するものだと思います。私は、観光客を呼び込む上で鍵になるのは情報発信だと思います。

(質問 ③) 一般社団法人噴火湾とよら観光協会事務局長岡本様から矢ヶ崎様への質問

- ・当協会では、観光地域づくりの一環として、地元豊浦中学校と連携し「総合的な学習」において、外部講師として観光地域づくりに関連した授業に参加しています。観光交流が差別や偏見をなくし平和な社会へ貢献する大きな役割を担っていることや、コロナ禍による地域の観光消費額損失についても説明しています。導入予定である生徒ひとり一台のタブレット端末を活用し、観光地域づくりに関連した取り組みの参考となる事例やヒントがあればお聞かせください。

(矢ヶ崎氏)

- ・現在の世界的な傾向として、SDGsの17の目標を「観光を通じて達成していこう」というところまで観光に対する期待値が高まってきています。授業の中で、観光はSDGsへの貢献も大きいということも教えてもよいと思います。また、生徒一人一人がタブレットを持つのであれば、国内外の観光を勉強している中学、高校、大学などとオンラインで交流し、連携構築を目指してもよいと思います。

(5) 閉会挨拶 北海道開発局室蘭開発建設部 平澤部長

- ・オンライン開催にも関わらず多くの方にご参加いただき、誠にありがとうございました。
- ・また、矢ヶ崎先生ならびに片桐様、長友様、伊藤様におかれましては、ご多忙の中ご準備をいただき、貴重なご講演に加え、意見交換のとりまとめ、西胆振の地域資源や歴史を活用した最新の取り組みなどをご紹介いただいたことに厚く御礼申し上げます。
- ・西胆振は支笏洞爺国立公園にある洞爺湖温泉、登別温泉や洞爺湖有珠山ジオパーク、海の幸豊かな噴火湾等、魅力あふれる観光資材を数多く有し、観光地形成に向けたポテンシャルが極めて高い地域です。
- ・また、今年8月には室蘭市の白鳥大橋が国土交通省のインフラツーリズムモデル地区に追加されるなど、観光活性化に向けた新たな動きも芽生えています。
- ・コロナ禍という観光業界にとって極めて厳しい中においても、新たな日常における観光振興に向けて、工夫、努力と熱意をもって取り組まれている片桐様、長友様、伊藤様の西胆振への愛情に満ちたお話を伺い、この地域の魅力を打ち出していく必要性、重要性について改めて認識したところです。
- ・本日の議論を活かし、8期計画に掲げる世界水準の観光地の形成の西胆振での実現に向けて皆様と一緒に取り組んでまいります。

以上

(速記のため、事後修正の可能性あります。)